
レモンの...？

潤

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

レモンの…？

【Nコード】

N8168P

【作者名】

潤

【あらすじ】

片思い中の相手のバスケの試合を見に行った中西 麻奈は片思い中の相手にレモンの…漬けを渡す。

ダンダン。
シュツ。

「やった、3PTシュートはいった…」

私<中西 麻奈>は今バスケの試合の応援に来ている。
別にバスケなんて興味ないけど

私が片思い中の佐藤君がバスケ部に

所属していて今日は

その彼の初スタメンの試合の日だから

応援に来た。

もちろん佐藤君の好きな

レモンの…何漬けだったけー？

それをもってきてである。

勝ったら私のつくった

レモンのなんちゃら漬けを食べたいということまで
必死に作ったのだ。

ピ、ピ、ピ、ピ、ピー。

試合終了の鐘の音。

ウチの学校は

さつき佐藤君の入れた3PTシュートのおかげで
ギリギリ勝てたのだ。

試合終了後。

バスケ部員はミーティングをしていたようで

なかなか会場から出てこなかった。

「いやー疲れたなあ、弘」

「疲れた、お前の最後のシュートなきや
完璧負けてたなあ」

「ありがとな、

お、麻奈。

来てくれてたんだ」

「うん、試合おめでとう」

「ありがとう。

悪い、弘。

先帰っててくれ」

「あいよ」

そっぴい村中君は帰路についた。

「ちょっとあっちの

ベンチ行こうか、麻奈」

「うん」

ベンチに移動した後。

私は疑問をぶつけた。

「なんで今日は私のこと

麻奈って呼ぶの？

いつも中西って呼んでるのに」

「いいじゃん、

それとも中西のほうがよかった？」

「ううん、麻奈のが嬉しい」

「そっか」

「はい」

私は必死に作ったのを出した。

真っ黒な液体の中にレモンがプカプカ。

「…」

佐藤君は絶句してた。

あれ？

レモンの醤油漬けじゃなかったけ？

試合の後食べたって言ってたのは？

「あれ？

前、レモンの醤油漬け食べたっていわなかったけ？」

「あ、ありがとう」

パク。

「辛い。

でもありがとう」

「いえいえ」

「でも俺が食べたいのは

醤油漬けじゃなくて…」

「あーそっか。

ゴメン漬けるの間違えてた。

みりんだったよね？」

「いや、違う。

どんな味なの、それ？」

「さあ？

きつとみりんとレモンの

ハーモニーでおいしいかもー。

みりんでもなかったの？

えーと…

砂糖？」

「俺を糖尿病にする気か」

「じゃ、塩？」

「高血圧にする気か。」
もう正解するまで答え言わない」
「コンソメ」
「レモンスープかつつの」
「…酒」
「うーひつくもう一軒いこかーって
俺はまだ未成年」
「酒っていつでも料理酒だよ？」
「それでもない」
「…酔？」
「めっちゃすっぱい」
「やっぱ麻奈おもしろいな。
正解言っわ。」
「はちみつだよ」
「え…はちみつ漬け？」
「うん」
「今度からはちみつ漬けでよろしく」

そして私は佐藤君が
試合に出るたび
レモンのはちみつ漬けを持っていた。
一度間違えて
グレープフルーツのはちみつ漬けに
してしまったこともあるけど。

(後書き)

多分、こういうときって

レモンのはちみつ漬けでしたよね？

すみません、自信ないっす。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8168p/>

レモンの...？

2011年1月4日03時05分発行